

2025 年 3 月 31 日

■+■-----
+■┐ 中部防災推進ネットワーク
メールマガジン Vol.54
■┐-----

各 位

中部防災推進ネットワークの参画メンバーの皆さまに、
メールマガジン（2025 年 3 月号）を配信します。

※メールマガジンのバックナンバー、これまでの会合の
発表資料等は中部防災推進ネットワークホームページに
掲載しています。

<中部防災推進ネットワークホームページ URL>
[http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/chububosai-
nw.html](http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/chububosai-nw.html)

1. 本ネットワークの参画団体のご寄稿

（1）一般社団法人助けあいジャパン

先日の勉強会

リアルに参加できて良かったです。

こうやって日頃から繋がって非常時の最大化するのが最
も重要だと考えています。

私たちは災害関連死をゼロにする（本気で）ために
取り組んでいるプロジェクトの一つに災害派遣トイレネ
ットワーク「みんな元気になるトイレ」があります。

2018 年静岡県富士市が最初のペンギンとして参加して
くれました。

2025 年 3 月現在最新の品川区を含め 29 自治体が参加し
てくれています。

中部では最近
岐阜県庁
三重県志摩市
三重県玉城町
が加入してくれました。

従来の
静岡県富士市
静岡県西伊豆町
愛知県刈谷市
を加えると六自治体になりました。

能藤半島では当時参加自治体の 22 自治体が全て稼働しました。しかし、ニーズは 84 箇所あったのです。62 箇所には落ちられなかったことになります。

まだまだ全然足りないのです。
南海トラフ発生時には 500 台にはしておきたいのです。
ぜひ、中部防災推進ネットワークの力で中部の参加自治体を増やしたいのです。

力を貸してください。

NHK の動画をご覧ください
<https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20250303/1000114816.html>

<一般社団法人助けあいジャパン URL>
一般社団法人助けあいジャパン

○文責（一般社団法人助けあいジャパン 
)

2. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ
(防災イベントの予定等)

(1) 一般社団法人 中部経済連合会

○イベント名：

福和伸夫氏による『過去に学び未来に備える南海トラフ地震対策』講演会

○日時：

2025年4月21日（月） 14：00～15：50

○会場：

名古屋栄ビルディング 12階 大会議室

○イベント内容：

<講演内容>

演目：『過去に学び未来に備える南海トラフ地震対策～新たな被害想定と官民連携による本気の事前対策～』

講師：名古屋大学名誉教授、あいち・なごや強靱化共創センター長 福和伸夫氏

過去に学び未来に備える南海トラフ地震対策

名古屋大学名誉教授 あいち・なごや強靱化共創センター長の福和伸夫氏をお招きし、政府が今春に見直し結果を公表予定の「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」に示されている最新の被害想定や、官民連携による災害対応の状況についてご講演いただきます。

↓詳細・申込はこちら↓

<https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=HQPBFJpREkmz2VoNknag2YyDlwUzRf1JhHv5udBTbDBUQUUpITUIYMjZQQkJYVVI1TEUwQTdIQzkxSiQlQCN0PWcu&route=shorturl<http://fofa.jp/cef/c.p?02d375jhDU>>

定員：会場80名・オンライン500名

[参加無料／申込締切日：4/7（月）]

*会場参加は中経連会員の方のみ

（2）一般社団法人 日本損害保険協会

○イベント名

親子で学ぶ 防災・減災ピクニック 2025

○開催日時

令和7年5月31日（土） 9：00～12：30【受

付 8 : 4 5 ~】

※参加費無料

※要事前申込（申込方法は URL ご参照、締切 5/14）

※定員（20 組 40 名）を超えた場合は抽選

○開催場所

名古屋大学東山キャンパス

※受付は名古屋大学博物館

○概要

福和先生にナビゲーターをお願いし、今後 30 年以内に発生すると言われている南海トラフ巨大地震などの自然災害について、親子で体験・体感しながら防災・減災を学ぶことにより、家族の防災力を高めることで、将来に備えるためのプログラムです。ぜひご参加ください。

※申込はこちらからお願いします。

<https://forms.office.com/r/UGX63LvxGz>

※会員企業の皆様にもぜひご案内・ご参加ください。

3. 編集後記（事務局・協力団体のひとこと）

中部防災推進ネットワークに事務局として参加しております、中部経済産業局総務課の ■■■■ です。

さて、今年度当局では、令和 6 年能登半島地震で被災したもののづくり企業 16 社に対し、復旧までのプロセスや組織文化についてインタビューを行い、「企業の復旧事例集～令和 6 年能登半島地震の実例から学ぶ～」及び「まずはここから レジリエンス向上ステップアップガイド」を作成しました。

（https://www.chubu.meti.go.jp/a21somu/press_2024/20250318/index.html）

インタビュー先の企業からは、「震災を経験し、平時からの『つながり』の重要性を改めて実感しました。特に、従業員が自主的に出社して復旧活動を行ってくれたことは、日頃からのエンゲージメント向上の取組がいかに重

要かということを実感させてくれました。さらに、取引先や関係会社、地域社会など、さまざまな関係先と日常的に信頼関係を築いておくことをお勧めします。これにより、万が一の災害時にも迅速かつ円滑に対応できる体制を整えることが可能となります。」というお話がありました。

今回、まさにインタビュー先から多くいただいた声が、この「従業員を最優先にする」ということです。もちろん、企業には供給責任があり、BCPの基本方針として、生産や供給の継続を優先することは重要です。しかし、企業が成り立つのは従業員がいるからこそであり、製品の供給もその基盤に支えられています。とても優れたBCPを策定して事前対策を行ったとしても、従業員が出勤できないと意味のないものになってしまいます。平時からのつながりを大事にすることが、実効性の高いBCPになるということを改めて実感しました。

東海地域に目を向けると、南海トラフ地震の発生確率が高まっている一方で、しばらく大きな災害を経験していません。BCP策定にはハードルが高く、何から始めたらよいのかわからないといった声や、災害・リスク対策に取り組んでいるものの、それらの実効性に疑問を持つ声も聞こえています。

そこで、能登半島地震で被災した各社の経験から学び、こういった対応、対策が速やかな復旧を実現したのかという、レジリエンス向上のためのポイントを整理しました。

本事例集、ガイドブックは、使われてこそ意味があると思います。地域企業、業界団体との連携を通じ、普及、啓発を行ってまいります。中部地域のレジリエンス向上に向け、中部防災推進ネットワークの皆様とも、情報共有、意見交換等を通じて、一緒に課題解決ができればと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。